

## 人間社会研究科 相関文化論専攻

【中学校専修（社会）、高等学校専修（公民）】

### ① 教員養成の目標

特定の地域・分野に関する文化史の変遷と、現代社会における異文化間相互の関連に注目する柔軟な思考力を養い、かつ、教育の現場でそれらを実際に活用できる人材の育成を設置の趣旨としている。

#### 【中学校専修（社会）】

中学校一種免許取得時に養った知識を一層深め、かつ世界の各地域の時間・空間的な相関性について深い理解を有する教員養成を目標とする。

#### 【高等学校専修（公民）】

高等学校一種（公民）取得時に養った知識と国際性をより一層深め、グローバルな視点から多様化した現代社会を理解し、またグローバル世界との相関性について深い洞察をもつ教員養成を目標とする。

### ② 当該目標を達成するための計画

上記目標のために配置されている科目群は、異なる文化の多様な思想、形態、表現手段といった多岐に亘る研究分野を配置し、文化の歴史的変遷に関する知識を深め、フィールドワークと学際的交流を重視した、奥行きのある人間理解の構築を可能にしている。それらの科目の履修を通して、狭義の文化理解を超え、文化について複眼的に考察・表現する能力を身につける。

#### 【中学校専修（社会）】

中学校一種免許取得時に養った知識をより深め、それらを横断的、相関的に理解し、説明するための力を、授業時のプレゼンテーションを通して養っていく。

#### 【高等学校専修（公民）】

高等学校一種（公民）取得時に養った知識をより一層深め、倫理、思想、宗教などの領域を横断的、相関的に説明する力を、授業でのプレゼンテーションを通して養う。また、論文作成における情報収集の方法、フィールドワークの手法についても指導し、学生が教員になった際の指導スキルを高めるようにする。